

平成27年5月10日（日） 一紅会 歴史研究同好会

古代と戦国ロマンの旅 ～埼玉県行田市～

○ 行田市郷土博物館

15世紀後半、成田氏によって築城。
 1546年、城主成田元泰の時、小田原城北条氏に服従。
 1588年、大阪城を完成し、ほぼ秀吉の天下統一なる。
 残ったのは、関東一円を支配する北条氏。
 秀吉の北条攻めの際、城主成田氏親が石田三成軍に対して徹底
 抗戦。石田軍は全長28キロにわたる堤を築造し、城を水攻め
 にしたが落城せず、小田原城の開城以後もしばらく持ち堪えた。

（和田竜作「のぼうの城」の舞台）
 以後、徳川家康四男、松平忠吉、徳川幕府支配、酒井氏、阿部
 氏、奥平松平氏、忍松平氏の藩領となる。
 幕末、鳥羽伏見の戦には幕府軍として参戦、敗走し、以後、
 新政府に恭順。東北戦争に従軍。

○ 八幡山古墳

7世紀前半に築造。当時すでに前方後円墳は築造されなかった。
 直径80メートルの円墳。
 昭和8年（1934）開発で露出した石室に対して、保存運動
 が開始された。昭和19年埼玉県指定史跡。
 石室、全長19.7メートル。
 横穴式石室。
 昭和10年から発掘調査。以後4回実施。

○ さきたま古墳群

卑弥呼の倭国支配以後、
 ヤマト王権が近畿地方に勢力を伸ばしていく。
 近畿地方を中心に強大な権力を持つ豪族が出現。
 多くの労働力を必要とする巨大な古墳の築造を開始。
 3世紀後半から6～7世紀までが古墳時代と呼ばれている。

さきたま古墳群は、この地方を強力な豪族たちが支配し、
 統治を進めていたことを示している。
 稲荷山古墳など全長100メートルを超える前方後円墳など
 4基、79メートルの中の山古墳、53メートルの愛宕山古墳
 など4基、直径105メートルという国内最大級の円墳である丸
 基山古墳1基の9基で構成されている。
 築造時期は5世紀後半から7世紀初めと推定される。
 昭和13年国指定史跡となる。

稲荷山古墳・・・昭和53知年 金錯銘鉄剣など貴重な副葬品が
 発見されて国宝に指定された。

粘土と河原石で造られた2基の埋蔵施設が復元さ
 れている。
 築造は5世紀後半。

将軍山古墳・・・露出していた横穴式石室が明治27年に発掘さ
 れた。石材は千葉県産の房総石や秩父地方の緑

20150510memo.txt

泥片石が使用されており、当時の交易ルートが忍ばれる。

二子山古墳・・・武蔵地方最大の前方後円墳。
6世紀前半の築造。

丸基山古墳・・・日本最大の円墳。
全長105メートル。
墳丘の高さは古墳群の中で最大。
築造は6世紀前半。
古墳が国指定史跡になったことを
記念して、石碑が昭和15年に建てられた。

近くに、石田三成による忍城攻略のためこ
築造した石田堤の跡がある。
この古墳が前方後円墳でなく円墳であること
が謎。

(以上)